

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23021

建築物名称	川崎市中原区井田1丁目プロジェクト
建築主	田邊 理子
建築物の所在地	川崎市中原区井田1丁目1010、1011の一部
設計者氏名、建築士事務所名	幸福 実和 株式会社平成建設東京 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,142.17㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和7年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川崎市中原区井田1丁目PJ	階数	地上4F
建設地	中原区井田1丁目1010,1011の一部	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	90人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2023年9月1日
敷地面積	1,419 m ²	作成者	㈱平成建設 松本
建築面積	725 m ²	確認日	2024年1月9日
延床面積	2,142 m ²	確認者	㈱平成建設 松本

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 94%
③上記+②以外の 94%
④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御		2.4/3.7	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	高性能の硬質ウレタンフォームA種1Hを採用。		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	高断熱浴槽、節湯水栓の採用。	3.9/5.0	3.9
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.4/4.7	2.6
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.5
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.2/0.5	2.6
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		1.9/4.0	2.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	高性能の硬質ウレタンフォームA種1Hを採用。		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	高断熱浴槽、節湯水栓の採用。	3.9/5.0	3.9
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	高性能の硬質ウレタンフォームA種1Hを採用。		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	高断熱浴槽、節湯水栓の採用。	3.9/5.0	3.9
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体								
配慮項目		G	W	R	H																			
Q 建築物の環境品質																	2.7							
Q1 室内環境																	2.8							
1 音環境																	3.0							
1.1 室内騒音レベル																	3.0	0.50						
1.2 遮音																	3.0	0.50						
1 開口部遮音性能																	3.0	0.30						
2 界壁遮音性能																	3.0	0.30						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	3.0	0.20						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	3.0	0.20						
1.3 吸音																	-	-						
2 温熱環境																	2.1							
2.1 室温制御																	3.3	0.50						
1 室温																	3.0	0.63						
2 外皮性能																	4.0	0.38						
3 ゾーン別制御性																	-	-						
2.2 湿度制御																	1.0	0.20						
2.3 空調方式																	1.0	0.30						
3 光・視環境																	3.0							
3.1 昼光利用																	3.0	0.50						
1 昼光率																	3.0	0.50						
2 方位別開口																	3.0	0.30						
3 昼光利用設備																	3.0	0.20						
3.2 グレア対策																	3.0	0.50						
1 昼光制御																	3.0	1.00						
3.3 照度																	-	-						
3.4 照明制御																	-	-						
4 空気質環境																	3.6							
4.1 発生源対策																	4.0	0.63						
1 化学汚染物質																	4.0	1.00						
4.2 換気																	3.0	0.38						
1 換気量																	3.0	0.33						
2 自然換気性能																	3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮																	3.0	0.33						
4.3 運用管理																	-	-						
1 CO ₂ の監視																	-	-						
2 喫煙の制御																	3.0	-						
Q2 サービス性能																	3.0							
1 機能性																	3.5							
1.1 機能性・使いやすさ																	4.0	0.60						
1 広さ・収納性																	3.0	-						
2 高度情報通信設備対応																	4.0	1.00						
3 バリアフリー計画																	-	-						
1.2 心理性・快適性																	3.0	0.40						
1 広さ感・景観																	3.0	0.50						
2 リフレッシュスペース																	-	-						
3 内装計画																	3.0	0.50						
1.3 維持管理																	3.0	1.00						
1 維持管理に配慮した設計																	3.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保																	3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性																	2.5							
2.1 耐震・免震・制震・制振																	3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																	3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能																	3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数																	2.6	0.30						
1 躯体材料の耐用年数																	3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																	2.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																	3.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	3.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔																	2.0	0.20						
2.4 信頼性																	1.4	0.20						
1 空調・換気設備																	3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備																	1.0	0.20						
3 電気設備																	1.0	0.20						
4 機械・配管支持方法																	1.0	0.20						
5 通信・情報設備																	1.0	0.20						

3	対応性・更新性								2.8	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり								-	-	2.6	-	0.50
	1 階高のゆとり								3.0	-	3.0	-	0.60
	2 空間の形状・自由さ								2.0	-	2.0	-	0.40
	3.2 荷重のゆとり								2.0	-	3.0	-	0.50
	3.3 設備の更新性								2.8	1.00	-	-	-
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	-
	2 給排水管の更新性								2.0	0.20	-	-	-
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	-
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	-
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	-
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	-
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	G	W		H				1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	G							3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮								3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50	-	-	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H				3.0	0.50	-	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.2
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H				4.0	0.20	-	-	4.0
									高性能の硬質ウレタンフォームA種1Hを採用				
2	自然エネルギー利用		W		H				3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W		H				4.4	0.50	-	-	4.4
									高断熱浴槽、節湯水栓の採用				
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								-	-	-	-	-
	4.1 モニタリング		W		H				3.0	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制		W		H				3.0	-	-	-	-
	集合住宅の評価								3.0	1.00	-	-	-
	4.1 モニタリング		W		H				3.0	0.50	-	-	-
	4.2 運用管理体制		W		H				3.0	0.50	-	-	-
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.6
1	水資源保護		W		R				2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水								1.0	0.40	-	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	-
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	-	-
	2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	-	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減								2.4	0.60	-	-	2.4
	2.1 材料使用量の削減		W		R				2.0	0.10	-	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R				3.0	0.20	-	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R				3.0	0.20	-	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R				1.0	0.20	-	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R				2.0	0.10	-	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R				3.0	0.20	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避								4.0	0.70	-	-	-
	1 消火剤		W						-	-	-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)		W						5.0	0.50	-	-	-
	3 冷媒		W						3.0	0.50	-	-	-
									ウレタン断熱材は、A種1H(JIS規格)を使用				
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		W						3.2	0.33	-	-	3.2
									省エネ性能を高めて運用面におけるCO2排出				
2	地域環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H				3.0	0.50	-	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0	0.25	-	-	-
	1 雨水排水負荷低減				R				3.0	0.25	-	-	-
	2 汚水処理負荷抑制				R				3.0	0.25	-	-	-
	3 交通負荷抑制				R				3.0	0.25	-	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制				R				3.0	0.25	-	-	-
3	周辺環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	-
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	-
	2 振動								-	-	-	-	-
	3 悪臭								-	-	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-	-
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	-
	2 砂塵の抑制								3.0	-	-	-	-
	3 日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-	-
	3.3 光害の抑制								3.0	0.20	-	-	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								3.0	0.70	-	-	-
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	-

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	2.0					○	○	-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		-	○				○	-	○	-				
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0			○	-	○	○	-	○	-					
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-					
2.4.2 給排水・衛生設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	1.0	-	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC0.5 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分システムU値 4.2 外皮UA値 0.8 ηAC 2.1 ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 1.5%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口率 3.3%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.3 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 2.86 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 67.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 1800 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 38% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 49% 水平投影面積率 5% 地表面対策面積率 21% 舗装面積率 32%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPIm - 昇熱等性能等級 等級4 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPIm 非住宅 - 住宅 0.88 太陽光 .0kW 太陽熱 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 #DIV/0! 棟間隔指標Rw - 地表面対策面積率 29.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb m ² 越風向と直交する最大敷地幅Ws 0 m 基準高さHb 0 m 緑地 192㎡ 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²